

# 夏休みにおすすめの本

《1・2年生むき》

令和2年7月

本を開くと、ハラハラ、ワクワク・・・すてきなせかい。そうぞうのつばさをひろげ、お話を楽しんでください。本はきっとみなさんのともだちになってくれることでしょう。  
この夏休み、たくさんのお本を開き、いろいろな主人公とであいましょう。

## おうさまのたからもの

糖谷 奈美 文絵  
至光社



すてきなほこに、いれるたからものを、さがしにでかけたおうさま。おうさまのみつけたたからものは、なんだったのでしょうか。

## ともだちやもんな、ぼくら

くすのきしげのり 作・福田岩緒 絵  
えほんの杜



カブトムシをつかまえようと木にのぼる3人。でもそこはカミナリじいさんの家。あわててにげたけど、友だちがころんでつかまってしまい、さあ、大へん。

## オレ、カエル やめるや

デグ・ベティ 文・マイク・ポルト 絵  
訳 小林賢太郎  
マイクロマガジン社



じぶんいがいの、もっとかわいいふさふさしたのになりたいかえる。おとうさんとゆかいなかいわをしているうちに…。シリーズでほかにも、たのしいおはなしがあります。

## ちよろいととっけー

降矢なな 作・絵 福音館書店



夏休み、おじさんの家にあそびに行くちよろりのあとを、弟のとっけーがついてきてしまいます。こまったことがつぎつぎおこる、楽しいお話です。

## ながーいふん みじかいふん

リズ・ガートン・スキャンロン/オードリー・ヴァーニック文  
オリヴィエ・タレック絵 木坂 領訳 光村教育図書



じかんはふしぎ。ながくかんじたり、みじかくかんじたり。みなさんは、どんなときにじかんをみじかくかんじますか。

## ハンダのびっくりプレゼント

アイリーン・ブラウン 作・絵  
福本友美子 訳 光村教育図書



ハンダは友だちのアケヨにあげようと、くだものを頭にのせて歩きます。カラフルなくだもの、アフリカのどうぶつたちがたくさん登場します。

## むしたちのさくせん

宮武頼夫・文 得田之久・絵  
福音館書店



むしたちが、いのちをまもるために、いろいろなさくせんをとっているのをしていますか。かくれんぼさくせんや、まねっこさくせん。むしたちもがんばっています。

## もぐらはすごい

アヤ井アキコ 作 川田伸一郎 監修  
アリス館



公園のもりあがった土はだれのしわざ？じつはもぐらです。もぐらはすごい！という土の中のせかいのおどろきを、楽しい文とえでしようかいています。

# 夏休みにおすすめの本

本を開くと、ハラハラ、ワクワク・・・すてきな世界。想ぞうのつばさを広げ、お話を楽しんでください。  
本はきっとみなさんの友だちになってくれることでしょう。

この夏休み、たくさん本を開き、いろいろな主人公と会いましょう。

## 世界のむかしばなし

瀬田貞二訳 太田大八絵

のら書房



世界各国から集められた、ゆかいでリズムカルなお話が14編集められています。漢字にはルビがふつてありますから、小学生が一人で読むのにぴったりです。

## 言葉屋

久米絵美里作 もとやままさこ絵

朝日小学生新聞社



言葉屋のたまごの詠子。初めての制服に、変わっていく人間関係。言葉で解決できることと、そのかべにぶつかりながらも、今日も詠子は、言葉屋修行にはげみます！

## 先生、しゅくだいわすれました

山本悦子作 佐藤真紀子絵

童心社



「ウソつくなら、すぐばれるよ。それなら、聞いた相手が楽しくなるよ。じゃなくちゃ。」そう言って笑うえりこ先生。子ども達は順番に宿題をできなかったわけを話すことに…どんな言いわけを考えたのかな。

## ぼくらの七日間戦争

宗田理作

ポプラ社



夏休みを前にした1学期の終業式の日。クラスの男子生徒22人が姿を消した！あわてる大人たちをしり目に彼らは廃工場に立てこもっていた。七日間に及ぶ大人たちとの大戦争。

## シロナガスクジラより大きいものっているの？

ロバート・E・ウェルズ作・絵 せなあいこ訳

評論社



地球上のすべての生き物の中で、一番大きいシロナガスクジラ。それより大きいものをどんどんさがしていくと、うちゅうの銀河までたどりつくよ！

## 魔女の宅急便

角野栄子作 林明子絵

福音館



ひとり立ちした魔女の子キキ。たどり着いた町で、空飛ぶ「宅急便屋さん」を始めます。相ぼうの黒ねこジジと喜びや悲しみを共にしながら、成長していくお話です。

## そうだったのか！しゅんかん図鑑

伊地知国夫 写真

小学館



肉眼で見えぬしゅん間を切り「撮った」写真絵本。ふだん何気なく見ているものを、そのしゅん間でストップ！してさつえいしました。

## 月のかたち

藤井旭 監修・写真

ほるぷ出版

満月から次の満月までの約1か月間、月のかたちが日々変わっていく様子を追っていきます。月のひみつシリーズは他にもあります。



# 夏休みにおすすめの本

本を開くとそこには今までに出会わなかった素敵な世界が広がります。心の中に想像の翼<sup>つばさ</sup>を広げ、自分自身の描いた主人公と一緒に冒険<sup>ぼうけん</sup>してください。

夏休みは、本と仲良くなるチャンスです。ここにあるおすすめの本はきっと期待を裏切りません。時間を上手に使う、この夏、大いに読書を楽しみましょう。読書は、心の栄養です。

## アメンボ号の冒険

椎名 誠作  
講談社

なかなか外で思い切り遊べない、こんな時期だからこそ、本の中で思い切り冒険を楽しんでみませんか。いかだを作って川を下ろう！トロッコで「海浜鉄道」を走ろう！秘密基地で幻灯会をしよう！精一杯、全身で遊んだ少年の日々がつぶられています。

## モモ

ミヒヤエル・エンデ作  
岩波少年文庫



赤ちゃんからお年寄りまで、すべての人間が平等にもっている24時間。自分の時間を自由に使えるのは当たり前？でも、もし、あなたの時間が、知らない間にぬすまれていたら……？

## 森は生きている

富山 和子著  
講談社

日本の国土の7割は森林。日本人の暮らしの中で森がどのように関わってきたか、森林のもつ働きや森林を育てる意味を考えさせられる本です。なかでも、森林が作り出す土こそが、人間を守ってくれることに気付かされます。



## ふたり

福田 隆浩作  
講談社

クラスでこっそりといじめにあっている転校生の佳純と、そのいじめを見つけてしまった准一は、二人とも同じミステリー作家、月森和のファンだということを知り…。本が大好きな二人のあわい恋と友情の物語です。



## コルチャック先生—子どもの権利を求めて—

フィリップ・メリュ著  
汐文社



ポーランドの豊かな家庭で育った少年が、ひん民街でまずしい子どもたちと出会います。一人の人間として大切にされるよう、子どもの権利を求めて活動し続けた「子どもの権利条約」の父、ヤヌシュ・コルチャックの生涯を描いた伝記絵本です。

## もうひとつの屋久島から

武田 剛作  
フレーベル館



2018年、屋久島が日本で初めて世界遺産に登録されて、25周年を迎えました。いまでこそ、世界自然遺産のかわりがつか屋久島ですが、じつはつい40年程前まで、島の至る所で、広大な原生林がばっ採されていたのです。それを止めるきっかけが始まりますが…。

## ロストガールズ

宮下 恵菜作  
岩崎書店

母親に思ったことを言えない珠緒は、卒業式に着ていく服を選びに行ったデパートで自らすすんで迷子になり、「迷子の天才」という女の子と出会い、「ロストガールズ」を結成します。二人はデパートの中で、やってみたい様々なことをしながらさまよいます。親との関係、友達との関係などを考えさせられる本です。



## ぼくとニケ

片川 優子作  
講談社

ある日、子猫がやってきた——。5年生で突然登校拒否になった幼なじみの仁菜が、薄汚れた子猫を拾い、ぼくの家へ連れてきました。自分の家で飼えない仁菜にかわって、ぼくと家族が世話をすることになったのだけれど…。子猫のニケと関わる中で成長する僕の姿が描かれます。

